

両陛下下迎えて



国土を  
緑で美しく

第20回

植樹祭 来年5月

鳥取県での植樹祭でお手植になる天皇陛下

国土を美しくし、災害を防ぎ、そして国の繁栄をもたらすねらいで行なわれてきた植樹祭は、20回を迎える明年、本県で開催することになった。

これを機会に、遅れているといわれる本県の「造林」に対して深い理解と認識をもち、国土を緑で埋めよう。

(笹津平割地内)に3本の「タテヤマスギ」をお手植えになった。これが天皇陛下お手植の最初である。

昭和26年に衆参両議院で「国土緑化推進に関する決議」がされ、昭和25年には「国土緑化推進委員会」が、各界の賛同を得て発足することになった。

これを機に、開催県と国土緑化推進委員会が共催し、天皇、皇后両陛下のご臨席を得て「植樹行事並びに国土緑化大会」(植樹祭)が挙行されることになった。

植樹祭のあゆみ

このように植樹祭行事は大正元年から57年余に至り、年々盛んとなった。そして昭和25年に第1回植樹祭が山梨県で開催されて以後、毎年各県での主要行事となった。

明年の春には、いよいよ記念すべき第20回の植樹祭が本県で行なわれる。これを機会に植樹事業をますます発展させ、緑の県土を築きあげたいもの。

大正元年に「植栽の日」

植樹行事の歴史は明らかではないが、こんにちまでにいわれているところによると、大正元年に「植林の日」を設けて植林運動を始めたのが行事の最初である。その後、大正末期から昭和19年まで、全国各地で「愛林植栽の日」「植樹日」「記念植栽日」「愛林デー」を設けて植林が行なわれた。規模の大きな

ものとしては、全九州愛林デーにおいて植林が盛大に行なわれた。昭和20年、21年は、人手不足、物資不足等の悪条件のため中止となった。22年には再び大日本山林会、興林会、日本林業会、その他3団体が会員となり、徳川宗敬氏(現国土緑化推進委員会理事長)を会長として「森林愛護連盟」が結成され

お手植は本県が最初

翌23年同連盟主催により東京都青梅市の永山公園明神平で、初めて天皇、皇后両陛下のご臨席のもとに記念行事が挙行されたのである。

第20回植樹祭のあらまし

次に明年の植樹祭の概要を紹介しよう。

次

# みんなの県政

場所は、右図にあるように、  
 県道富山―砺波線（俗称音川  
 線）の沿線、砺波市頼成山地内  
 で約6ヘクタールが会場。  
 現在ブルドーザーの音高く、  
 急ピッチで会場造りを行なっ  
 ている。

当日は、会場に天皇、皇后両  
 陛下のご臨席を始めとして、国  
 土緑化推進委員会会長（衆議院  
 議長）、農林、文部大臣、国会  
 議員、各県知事、議長等の県外  
 招待者約3千名、県内の市町村  
 長、議長、各種団体長や林業関  
 係者等約8千名、その他大会運



今年の秋田県での植樹祭風景 (植樹祭事務局)

営のための奉仕者  
 約2千名、計1万  
 3千名の参加者を  
 見込んでいる。  
 輸送には、バス  
 約200台、ハイ  
 ヤー約250台を  
 あてる予定であ  
 る。

タテヤマスギなどお手植  
 なお、当日は、両陛下は県木  
 「タテヤマスギ」その他「マス  
 ヤマスギ」「ボカスギ」をそれ  
 ぞれ一本あてお手植えになる。  
 参加者にも記念の植樹をしてい  
 ただくことにしている。  
 また、両陛下には、植樹祭後、  
 立山町吉峰の県林業試験場で  
 「タテヤマスギ」の種子をお手  
 播されることになっている。

## よい 植え付け

なにごと、スタ  
 ートが大切。造林の  
 スタートは植え付け  
 である。山を生かす  
 も殺すも植え付けの  
 適否によってさま  
 る。そのためにも事前に山を十  
 分調べ、よい植え付けをしよう。

- 1 環境（海抜、方位、傾斜など）
- 2 土壌と基盤（深さ、土性、水分状態、堅さ）
- 3 気象（風の方向、気温、降水量、積雪量など）

こうしたことを考慮して、その山に適する樹種、品種を選定して植えよう。

### 10月中、下旬が最適

春植え、梅雨植え、秋植えがあるが、本県では秋植えが8割を占める。

秋植えの特徴は、年内に苗木の根が活着して、翌春すぐに伸びだすところによさがあるわけである。植え付けが遅れると、春先の雪による根ぬけなどから枯れが生ずるので、適期にていねいに植えよう。

- 本県では「スギ」が主だが、一ヘクタール当りの本数は
- タテヤマスギ 2千500本
  - ボカスギ 1千500本
  - アカマツ 2千500本
  - アカマツ 3千500本
  - アカマツ 76千本

カラマツ 2千  
 2千500本  
 その他の品種は2千〜3千本  
 くらいが無難。（クリ、キリ、  
 ポプラ等は別）  
**曇った無風の日を選ぶ**

- ◎植え付けの注意
- 1、大きい穴（40×40センチ）をあけて、ていねいに植える。
  - 2、苗木は、移動で弱っているから、仮植えて元気になったから山に植える。
  - 3、曇った無風の日、降雨直前に植えつけ、その後根元をよく踏んでおく。
  - 4、乾燥しやすい所、強風のあたる所は深めに、粘土質、排水の悪いところは浅植えにしたほうがよい。

以上のことに注意して、一本一本ていねいに枯れないように植え付けよう。（林政課）  
 ◎第20回全国植樹祭緑化標語  
 入選第一位  
 植樹祭、我が家も参加

新浜市立町、明 純治  
 この一本

